



使用済み核燃料の乾式貯蔵施設では、耐震性・除熱性能・ガスケット劣化などの重要性で、市が具体的な説明を受けていないことが判明。全国で長期化が進む中、薩摩川内市としていつまで敷地内に置くのかという姿勢も示されず、「国任せ」が際立ちました。

イノシシによる農作物被害については、生息分布や出没状況を地図化する「見える化」で対策の強化を提案しました。市は個体データを持ちながら、まだ十分に活用されていないことも明らかになりました。

市は、11月25日（火）の議員全員協議会で入来工業団地（旧富士通工場跡地）にAIデータセンターを建設したい企業を交渉相手に選んだことを公表しました。

2026年8月操業予定、2期19MW恒久的建屋型2027年6月（12月予定）で、これは一般家庭2万～3万世帯分の電力に相当する大規模な施設です。市民への説明はまだ行わされていません。

活環境への影響が懸念されます。地下水の利用や電力供給体制についても、市は詳しい説明をしていません。

地域の暮らしに大きく関わる計画である以上、市は丁寧な情報公開と住民説明を行い、市民の不安や疑問に応える必要があります。

# 入来工業団地に23MWの データセンター計画

ク九州（火力発電所跡）に計画されている350MW級AIデータセンターは、原発1基の4割に相当する電力を消費し、廃熱や水温上昇など重大な影響が懸念されます。しかし市は「事業者が対策する」「注視する」とどまり、独自調査を行う姿勢が見えません。

介護の現場では物価高と人材不足により7～8割が赤字との深刻な実態が寄せられ、撤退リスクが高まっています。井上議員は市独自支援を求めるましたが、答弁は消極的で、地域の介護をどう守るのかが問われています。

市民の安全や暮らしへの影響を十分に検討していない点です。井上議員は「市民の不安に正面か

ら向き合う市政へ」と迫りました。民報きずな来週号からは、それぞれのテーマを詳しく紹介してい



## 質問する井上議員 (=8日、本会議場)

指人工内耳を紛失した小学生家族の訴えー市の聞き取りはあつたが：\*\*

母子家庭の小学  
生が人工内耳（約  
百万円）を紛失し  
再購入できないとい  
う相談を受け、市  
へ制度改善を要望

まり、本来検討すべき「障害者等日常生活用具給付」へ人工内耳を加えるかどうかという制度の根本改善には踏み込まなかつたのです。

でも取り上げ、子どもと家族が安心して暮らせる支援制度へ前進させたいと思います。暮らしの中の困りごとはご相談ください。



## 入来工業団地のレイアウト図 2街区・7～9街区（4街区合計 約37,000m<sup>2</sup>）

こち  
ちら  
くら  
しの相談所  
(No. 632)  
携帯 080-  
3996-0237  
(井上)  
なくでござ相談ください

してきました。人工内耳は補聴器とは異なる医療機器で、子どもの学習・生活を支える不可欠なものです。

市障害福祉課から「詳しく聞きたい」との連絡があり、聞き取り

人工内耳を給付対象にするかどうかは、最終的には市長の判断で決めることができる事項です。相談後、がつかりした母親の背中が寂しそうでした。障害が不自由を生むのでは

